

# 清 陵

神奈川県立横浜清陵高等学校 発行日平成29年5月1日  
第1号A版 横浜市南区清水ヶ丘41 電話045-242-1926



本校は、平成29年4月1日より神奈川県立横浜清陵高等学校として出発しました。平成29年度並びに平成30年度の2年間は、単位制の総合学科と普通科の2学科併置となり、平成31年度から単位制普通科の学校になります。

保護者や地域の皆様はもとより県内の広い地域も含め、多くの方々から本校にお寄せいただいている期待の大きさと、本校教職員に課せられた責務の重さを、我々一同身が引きしめる思いで感じています。

これまで横浜清陵総合高校として培ってきた歴史や伝統を継承し、発展させて「新しい学校づくり」に邁進するしだいです。

## 勉強していますか

新学期が始まりました。生徒の皆さん、1年次生は夢に向けて、2年次生は進路や部活動に向けて、3年次生は進路活動に向けた日々を過ごすこととなります。皆さんは本校に入学するために毎日勉強していたと思います。今はどうですか。高校入試で毎日受験勉強していたということは、毎日勉強することができるはずですが、この勉強時間には予習、復習はもちろんのこと、受験勉強も入ります。高校生の平均勉強時間は、いろいろな調査によってこととなりますが、まずは毎日勉強する習慣を身につけ、毎日習ったことを覚えてしまうことが肝心です。

校長は担任時代、クラスの生徒に「毎日1時間は勉強しなさい」といっていたそうです。校長になぜ1時間なのですかと尋ねると、「毎日1時間、土日は3時間自宅で勉強すると、学校の授業時間にきちんと学んでいけば1日10時間勉強したことになる。それは1年間で3650時間、3年間で1万時間を超すことになる。3年生の1年間、それも10ヶ月間1万時間勉強することは難しいからです。」と答えていたそうです。確かに、この1時間が3年間で大きな違いになってくるのです。また、日々の授業時間も大切です。

よく生徒から「3年になったら勉強するから」とか、「部活動引退してから勉強するから」という声を聞くことがあります。早くから目標を決め、その目標に一步一步進むことが大切です。ゆっくりと確実に歩むのです。急に富士山は登れません。

推薦入試で入学を考えている人も、小論文や面接の練習だけでなく、入学後退学や休学、留年などにならないように勉強しておく必要があります。大学に進学した学生の2割は、退学・休学、留年などによって4年で卒業できていないといわれています。その原因は、経済的な事由を除けば学業不振、基礎学力不足といわれています。勉強しましょう。



平成 29 年 4 月 6 日(木)晴天に恵まれ、満開の桜のなか、平成 29 年度横浜清陵高等学校第 1 回入学式が挙行されました。278 名の生徒の名前が呼名され、入学許可がなされて横浜清陵高等学校生として歩み始めました。

「入学式での祝辞」

校 長

横浜清陵高等学校に入学した皆さん、誠におめでとうございます。本校を代表して校長の私より祝意を述べさせていただきます。また、愛情を持って今日まで育てられてきた家族や関係者の皆様に対しても心より祝意を述べさせていただきます。さらにご多忙のなか、晴れの入学式にご臨席を賜りました来賓の皆様には、厚く御礼を申し上げます。さて、私から入学に際して一言申し上げさせていただきます。本校での 3 年間で是非グリットを身につけてください。グリットは、現在アメリカのビジネス界や教育界等で話題となっているものです。グリットのスペルは「GRIT」で擬音語であり、単語としての意味は小さな砂、砂粒。口語では困難にあってもくじけない勇気や闘志を指します。アメリカのペンシルバニア大学のアンジェラ・リー・ダックワース氏が成功するために提唱した理論がグリットです。彼女曰くグリットとは「最後までやり抜く力」と言っています。彼女は自身の中学校の生徒、陸軍士官学校の学生、優秀なセールマン、スペリングテストの優秀者などを対象に、成功の秘訣を調査しました。その調査の結果は、成功者が持つ共通点は、知能や身体能力、才能、学歴などはほとんど関係がなく、物事に対する情熱であり、目標のためにとてつもなく長い時間、継続的に粘り強く努力して最後までやり遂げる力＝グリットでした。グリットは知能、能力でもなく第三の要素と言われています。成功には生まれつきの知能、能力は関係がないことを意味し、成功しなかったのは、グリットによって得られる才能や能力を伸ばすための長期的、継続的な努力が足りなかっただけなのです。

昨夏のリオ・オリンピックの陸上競技男子 400 メートルリレーを思い出してください。現在まで 100 メートルを 9 秒台で走った男子選手はウサイン・ボルトやカール・ルイスなど 97 人しかいません。97 人の中にはアメリカが 49 人、ジャマイカが 16 人、ナイジェリア 8 人と続きますが、日本人で 10 秒の壁を破った選手はいません。しかし、リオ・オリンピックの男子 400 メートルリレーで日本のチームは見事銀メダルに輝きました。ジャマイカやアメリカには何人も 9 秒台の選手がいるにもかかわらずジャマイカと接戦し、銀メダルに輝いたのです。その影には、歩数調整やバトンパス、度重なる練習等、地道な努力があったのだと思います。これこそ日本人の持っているグリットの成果だといわれています。

将棋の 19 世永世名人羽生善治は「何かに挑戦したら確実に報われるのであれば、誰でも必ず挑戦するだろう。報われないかもしれないところで、同じ情熱、気力、モチベーションをもって継続しているのは非常に大変なことであり、私は、それこそが才能だとおもっている」と言っています。この羽生名人のことばこそグリットだと感じています。私はグリットが才能や知能を生むのだと思います。

皆さん、まずは失敗を恐れずに挑戦してみましょう。敗れたとしても、それは一時のものでしかありません。高校時代に失敗に挫けず挑戦し続けることによって才能や知能がついてくると信じ、長期的に、継続的に挑戦してください。そしてグリットを身につけて次のステップに進んでください。人格はいくつになっても成長します。私達教職員は、皆さんが高校生活を送るなかで成長するための支援を行っていきます。以上をもって横浜清陵高等学校を代表し、校長からの祝辞とさせていただきます。